

NTT DATA
Trusted Global Innovator

ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究 報告書概要版

2024年3月

事業概要

調査研究の背景・目的

「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども基本法ではすべてのこどもや若者について、その年齢及び発達の程度に応じた意見表明機会や社会的活動に参画する機会を確保すること、こどもや若者の意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することが基本理念として謳われている。また、同法第11条において、こども施策を策定、実施、評価するとき、こどもや若者等の意見を反映するために必要な措置を講じることが国や地方公共団体の義務となった。このような背景から、今後、国や全国の地域の様々な場面で、こどもや若者が自身に関係する施策について意見を聴かれる機会が増えていくことが見込まれる。

そこで、本事業はこどもや若者にとって安全で安心な意見表明の環境を整備するため、こども・若者の意見表明をサポートするファシリテーターを養成するためのモデルプログラムと教材を作成することを目的とする。

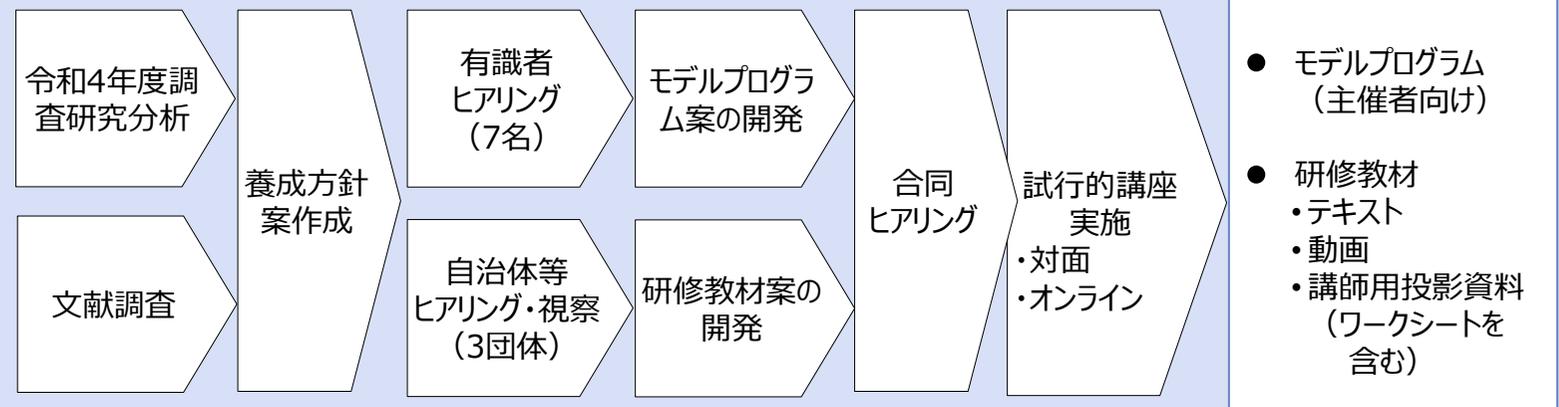
こども意見ファシリテーターとは

本調査研究では、主にこども・若者の意見を政策に反映する取組において、こども・若者が意見を言いやすい環境をつくり、その意見表明をサポートする人材を「こども意見ファシリテーター」とする。

こども・若者の意見を聴く際、複数の参加者同士の会話を促進し、どのような意見も尊重されるといった安全・安心な場づくりを行う役割を担う。

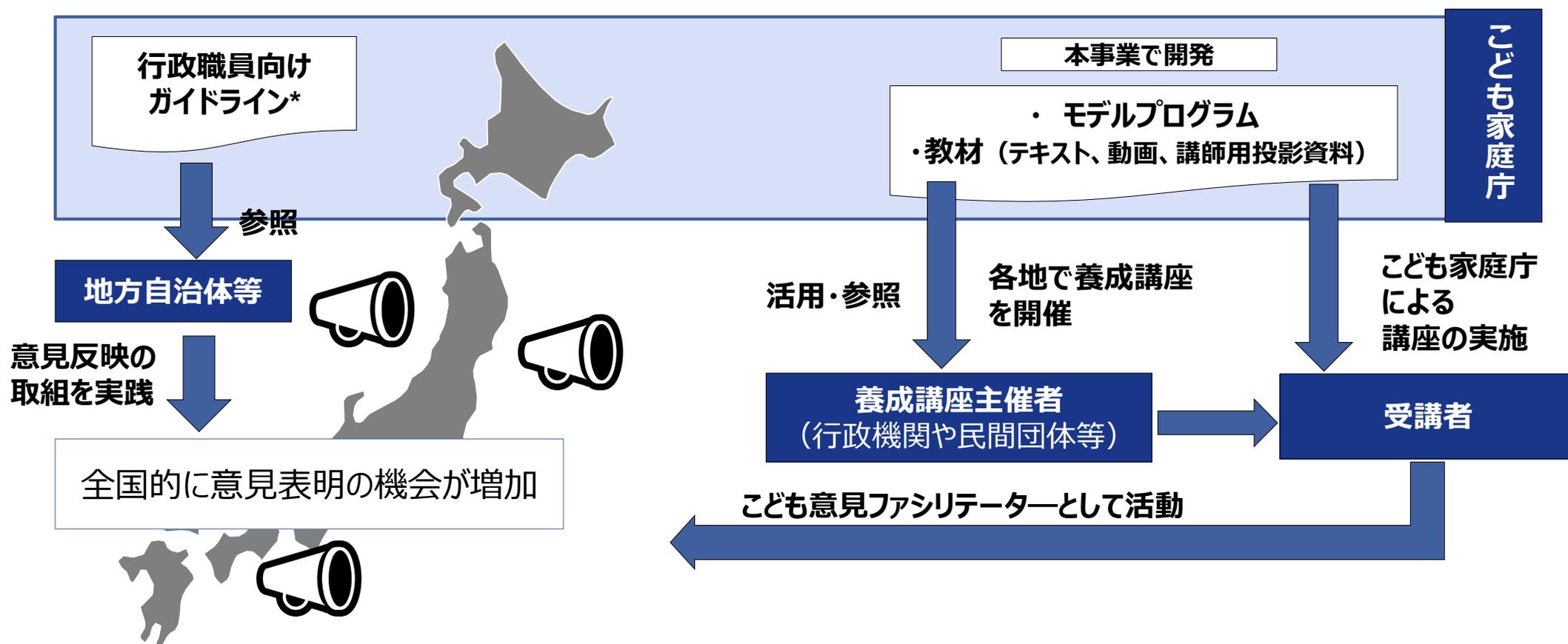
調査研究の全体像

◆ 目的：こども・若者が意見を言いやすい安全で安心な環境を全国的に整備するためのファシリテーター養成に向けたモデルプログラム等の作成



モデルプログラムの活用方法

- モデルプログラムは、こども家庭庁が今後、こども意見ファシリテーターを養成する際に活用するほか、国や地域の様々な主体（行政機関、民間団体）が同様のファシリテーターを養成することができるよう、養成の対象や目的、学習内容やタイムライン等を取りまとめたものである。また、養成講座を開催するにあたってのポイント、留意点を含めた講座開催ガイドも本調査研究において作成した。
- モデルプログラムや教材をそのまま活用して講座を開催するケースと、本プログラムや教材の要素を活かし、ニーズに応じて必要なアレンジをして講座を開催するケースを想定した。



*こども家庭庁令和5年度委託事業「多様なこども・若者の意見を聴く在り方及びこどもの意見反映に関する行政職員の理解・実践に向けたガイドライン作成のための調査研究」で作成

文献調査、ヒアリング・視察

- 民間団体や自治体で実施している、ファシリテーターもしくはそれに類似する人材の養成事例やこどもに関わる養成講座を調査。ファシリテーター養成に向けた論点整理と方針検討を行った。
- 検討した方針について、こどもの権利、こども・若者対象のファシリテーション、一般ファシリテーション、教育プログラム開発の分野の有識者及び独自に人材養成をしている自治体等にヒアリングを行った。

文献調査（既存事例調）

#	講座名称（順不同）	実施主体
1	わかもの参画ファシリテーター	NPO法人わかもののみち
2	教育ファシリテーター養成講座基礎編	NPO法人みらいずworks
3	わくわくナビゲーター養成講座基礎編	NPO法人キーパーソン21
4	わくわくナビゲーター養成講座応用編	同上
5	ファシリテーター養成講座	一般財団法人あしなが育英会
6	こども哲学ファシリテーター養成講座初級編	特定非営利活動法人こども哲学・おとな哲学アードコーダ
7	ファシリテーション研修「次世代リーダー教育インターンシッププログラム」宿泊型キャンプコース	特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
8	ファミリーサポート提供会員	東京都福祉保健局
9	子どもアドボカシー基礎講座	長崎県（委託：NPO法人子どもの権利オンブズパーソンながさき）
10	子どもアドボカイト養成講座(基礎編)（意見表明支援員）	宮城県（委託：一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ）
11	子どもアドボカイト養成講座(実践編)（意見表明支援員）	同上
12	ファシリテーション基礎講座	特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会
13	ファシリテーション公開講座（実践編）	同上
14	チャイルド・ファシリテーター講座	石巻市子どもセンター（共催：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

ヒアリング

#	養成人材	所属	役職	氏名（敬称略）
1	チャイルドファシリテーター	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	事務局長	高井明子
2	わくわくナビゲーター	認定NPO法人 キーパーソン21	代表理事	朝山あつこ
3	大学生ファシリテーター	兵庫県立大学 環境人間学部 / ソーシャルメディア研究会	教授	竹内和雄
4	こども哲学ファシリテーター	特定非営利活動法人こども哲学・おとな哲学 アードコーダ	代表	角田将太郎
5	ファシリテーター	特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会	前会長理事	竹本記子 山田真司
6	ファシリテーター	ミテモ株式会社	取締役	飯田一弘
7	行政職員アドバイザー	静岡県磐田市（政策推進課）		
8	子ども会議サポーター	神奈川県川崎市（川崎市子ども会議事務局）		
9	児童厚生員	一般財団法人児童健全育成推進財団		

ファシリテーター養成に向けた論点に関する主な意見（ヒアリング結果）

養成方針の論点	ヒアリング結果（敬称略）
1.対象者	<p><求められる資質></p> <ul style="list-style-type: none">• こども心や好奇心があり、こどもと同じ目線に立てる人で、ジャッジしないマインドセットが大事。教えた人が集まりがちだがファシリテーターが講師になってしまうとこどもはその人の正解を答えようとしてしまう。• 相手の心の声を引き出し、相手の心のど真ん中を見ることが出来る力を備えていること、誘導したいゴールを持たないこと、エゴがなく無の状態になれること、上下関係のない対等でフラットな状況でいられること、意味のある（意図のある）問いを出すことができること。
2.想定するファシリテーション場面	<ul style="list-style-type: none">• 政策決定プロセスにおいてこどもの意見を聴き反映することを前提にしたファシリテーションとなるため、その想定場面を受講者に具体的に示す必要がある。• グループファシリテーションを想定していることは明確にした方が良い。
3. 主催者、こども家庭庁、行政機関、民間事業者の役割分担	<ul style="list-style-type: none">• 国が主催し、民間事業者やNPOが委託で実施する形が良い。全国をブロック単位で分けて養成することを市民団体がやることは規模的に難しい。• 民間が主催するよりも国や自治体主催の方が、こどもの意見反映やファシリテーションを広めようとしているというメッセージを社会に送れるためインパクトがあるのではないかと。• 形だけのファシリテーションにならないよう、どこかが質の担保をする必要がある。• ステップアップは各団体の得意分野を活かして民間団体が担うことが考えられる。

ファシリテーター養成に向けた論点に関する主な意見（ヒアリング結果）

養成方針の論点	ヒアリング結果（敬称略）
4. 講師	<p><求められる資質></p> <ul style="list-style-type: none">・ コミュニケーション力、ファシリテーションスキル、（こどもに対するリスク等の）分析力が必要。・ こどもの権利、意義ある参加（こどもに関係のある政策についての理解を含む）、最善の利益、こどもの安全、継続的なプロセス（本事業の位置づけ）、メディアコミュニケーション（肖像権の利用を含む）を理解していることが必要。・ 講師と事前の打ち合わせにより講座の趣旨について共通理解をもつこと、複数の講師がいる場合は講師同士の認識を共通にすることが必要である。・ ファシリテーションのスキルを教える講師以外に振り返りをサポートするスーパーバイザーもいた方が良い。
5. 研修内容	<ul style="list-style-type: none">・ こどもの意見をたくさん引き出すことが目標なのか、実施回毎に目標が異なるのか等、現場のファシリテーションのゴールを示してほしい。・ 最低限こどもが傷つくようなリスクを避けられるファシリテーターになるための講座とすることが考えられる。・ ファシリテーションは知識があればできるものではなく経験が必要。基礎編で最低限必要なことを学び、その後学びを深めていくことが考えられる。・ こどものセーフガーディング*の考え方やファシリテーションの基本スキル等が重要。こどもの意見表明に関する前提知識（こども家庭庁の立場、意見表明とは何か等）も教材に盛り込む必要がある。・ こどもの真意を見る方法や、プログラム自体が楽しいものになるような内容が必要である。難しい話をするのではなく、分かりやすく国の施策について誰でも話せるような設計にする必要がある。こどもに対してだけでなく、ファシリテーターを担う大人にとっても人生の学びとなるような内容であることが望ましい。・ こどもの話をちゃんと聞くことができない人が意外と多い。アクティブリスニングと質問力、自分のバイアスに気づくためにはお互いにフィードバックし合う振り返りの時間が命である。最後にまとめて振り返りをするよりも、一つ一つのスキル後に振り返りを丁寧にする方が良い。・ 研修の最後にこどもがいる場に行き、サポーターとして実践することも一案。

*こどものセーフガーディング：ここでは、こどもの権利に反する行為や危険を予防し、安全・安心な活動と運営を図ることをいう

ファシリテーター養成に向けた論点に関する主な意見（ヒアリング結果）

養成方針の論点	ヒアリング結果（敬称略）
6. 研修方法	<ul style="list-style-type: none">• 後半の実践編の時間が4時間では少ない印象。座学はできるだけオンデマンドを活用して、講座は集合型でしかできないことに集約した方が良いのではないか。• 養成スピードを求めるのであればオンラインがよい。• 座学はオンデマンドでもよいかもしれない。リスク分析は集合型で意見交換が必要である。• 基本的な内容はオンデマンドを活用すべきである。振り返りをできることが重要である。
7. 教材	<ul style="list-style-type: none">• 十分に知識をインプットしてほしいのであれば、事前教材は気楽な内容や量がよい。• こども相手であるがゆえに気をつけるべきポイントやセーフガードは教材に含まれる必要がある。
8. 研修後	<ul style="list-style-type: none">• ファシリテーターの自主的な学びの場や、コミュニケーションの場があるとよい。• 全国で養成事業を展開する際、ブロックごとにスーパーバイザーを置くとよい。ファシリテーターが相談できる相手が必要である。
9. その他	<ul style="list-style-type: none">• ファシリテーターの想定場면을踏まえると、中・高・大学生がファシリテーターになると良い。大人が質を担保しつつ、メインのファシリテーションは大学生が高校生向けに、高校生が中学生向けに、中学生が小学生向けにファシリテーションをし、連鎖的につながっていくような仕組みをこども家庭庁が作れると理想的ではないか。

試行的事業の実施概要

- 有識者及び自治体へのヒアリング・視察を踏まえて養成方針を決め、モデルプログラム案及び教材案を作成。これらを用いたこども意見ファシリテーター養成講座を試行し、プログラムや教材の内容について検証した。
- 講座は「振り返り」や「対話」、「模擬会議」などワーク中心とし、知識の学習はテキストと動画による事前学習の構成とした。

実施概要

- 対象：モデルプログラム案が想定する受講者であるファシリテーション経験、こどもと日常的に関わる経験、こども意見ファシリテーションの経験について経験がない人及び経験がある人の双方を対象とした。

- 開催日時
(対面講座)
2023年12月18日(月)
9~17時 23名参加
- 開催日時
(オンライン講座)
2023年12月19日(火)
9~17時 15名参加

準備中のこども家庭庁の養成講座をより良くするために力を貸してください！

こども意見ファシリテーター養成講座

体験モニター募集！

応募条件

- ① 18歳以上
- ② 専科学習教材を学習すること(教材及びオンライン教材(約1~2時間))
- ③ 講座に1日参加すること
- ④ 講座受講後の意見交換会に参加すること(毎日午後5時~6時)
- ⑤ 講座終了1週間以内、アンケートに回答すること

応募期間
2023年11月(木) ~ 11月24日(金)

応募方法
申込フォームからご応募ください。

日時/場所

- ① 2023年12月18日(月)：会場
(〒100-6070 東京都千代田区有明3-2-5 有明コロシアム14階) こども家庭庁大会議室
- ② 2023年12月19日(火)：オンライン

時間
本日の朝~午後6時
※平日朝~午後1時迄は休息です
※平日朝~午後6時は講座後の意見交換会の実施を予定しています。

講師
認定NPO法人フリーザ・チルドレン・ジャパン

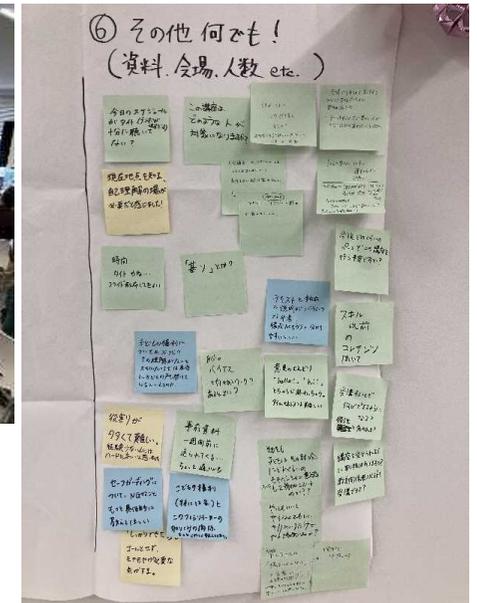
受講料
無料

募集人数
①会場20名、②オンライン20名
※定員を超えた場合は抽選となります
※抽選の結果は講座前までに通知いたします
※会場参加の方で希望する方には交通費をお支払いします(上記2名分)

講座内容
傾聴力と質問力を磨き、模擬会議を通してこどもの意見を引き出すファシリテーションを学ぶ。
養成講座は、事前学習の教材(紙・オンライン教材あり)を履修いただくだけで受講可能です。
教材は、15分を1コマとし、ファシリテーター研修の進め方を、2コマを1セッションとし、2コマは疑問や質問の場を設けて、ミニコーナーや振り返りを通して、ファシリテーションスキルを定着させる内容となっています。

主催
株式会社NTTデータ経営研究所

お問い合わせ先
Email: exambn@ntt-data-stemmy.com
Tel: 090-6053078
【お申し込み】9:30~17:00
【お申し込み】9:30~17:00
【お申し込み】9:30~17:00
【お申し込み】9:30~17:00



Q&A Polls

Type your question

Popular Recent 22 questions

【アイスブレイク】最初に声を出す時間があって安心できた

【ペアワーク】自分の役割がAなのかBなのか、フィードバックが終わってからのAもBも終わってからのAもBもわかっていなくてよかった。

【ペアワーク】3人1チームになって、A、B、タイムキープの3つの役割で回していくと進めやすいと思いました。役割カードは、もう少しフロントを大きくしてほしいです。

【模擬会議】何をテーマにするのか、説明を聞いてもいまいちわかっていなかったので、おそろしく具体例のほうに引っ張られてしまいました。スライドのスクリーンをチャットに投げて欲しいです。



試行的事業の主な検証結果

- 学びたかったことは概ね学べたという評価であった。
- 改善点として、「初学者向けには講義部分がより丁寧な方がよい」、「テキストのどの部分を扱っているかの案内があるとよい」、「大人向けではなくこども向けファシリテーション特有のポイントについて丁寧に扱ってほしい」、「こどもの権利条約やこども意見ファシリテーターの必要性等の前提にあまり触れられていない」、「内容が多いため2日間に分ける等、時間に余裕をもった方がよい」、「ヨコ文字が多く、頭に入っていない」等の意見があった。
- また、フィードバックやスーパービジョンを受ける機会等、受講後の実践機会や育成機会についての意見もあった。

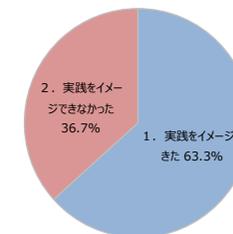
講義・ワークの方法

[Q9]講義（ファシリテーションとは）・ワーク（コミュニケーションスキル）の方法（時間配分、ワークの方法等）は、こども意見ファシリテーターとして活動するための学習方法として適切でしたか。
(n=30)



模擬会議での実践イメージ

[Q17]模擬会議でファシリテーター役を担当した際、実践をイメージして行うことができましたか。
(n=30)



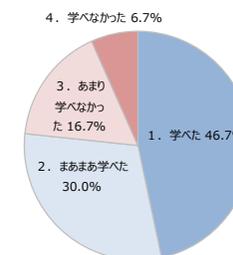
講義・ワークの内容

[Q11]講義（ファシリテーションとは）・ワーク（コミュニケーションスキル）の内容は、こども意見ファシリテーターとして活動するための学習方法として適切でしたか。
(n=30)



講座の有用性

[Q23]本講座全体（事前学習、当日の講座を含む）では、知りたかったことを学べましたか。
(n=30)



試行的事業の主な検証結果

項目	改善に向けた主な意見
全般的な評価	<ul style="list-style-type: none">• これまでファシリテーションをしてきた経験について、言語化できていなかったことが言語化され、系統立てて理解することができた。• 無意識にしていたことがスキルであることを知り、自分なりの方法に意味があることに気づけた。• 初めてのファシリテーションは、想像以上に同時並行で考えながらやらなくてはならないことに気づいた。• こども・若者の言葉をそのまま聴くのではなくて、深掘りしていくことが大事だと感じた。
プログラム	<ul style="list-style-type: none">• 意外と高度な内容でスピーディーだった。ファシリテーションを実践している人が多かったのが良かったが、1年目だったら分からない内容。• ファシリテーションのDO部分にフォーカスしているが、企画や振り返る部分が抜けている。• 何のためにやるのかを徹底する必要がある。「こどもの最善の利益のため」という説明も少ない。「こども家庭庁が言っているからやる」という人ばかりにならないか。マインドセットがないため腹落ち感が不足している。• 将来的には「こども意見ファシリテーター」の活動に参加したこども達が次のファシリテーターとなって活動できるような環境が整備されるとよい。
教材	<ul style="list-style-type: none">• 受講する人それぞれの前提知識に応じて特に学んでおいたほうがよい箇所の案内等があると、限られた時間でも効率的に事前学習に取り組むことができる。• こどもならではの要素がもう少しあったほうがいい。現状のテキストは大人向けの内容とのあまり違いを感じられない。
講座	<ul style="list-style-type: none">• それぞれの実践の経験をもとに実践の場で何に困っているのか、経験者だからこそ話したい・話せる時間がほしい。• 「こども意見ファシリテーター」のイメージが参加者によって違っていたように感じた。経験者・未経験者でイメージを擦り合わせることも大事かもしれない。• アンコンシャスバイアスについての説明がもっとほしかった。• 模擬会議のテーマや役割が入ると、初心者には難しい。役割が複雑だった。• 詰め込みがすぎて、頭に入ってこない。ヨコ文字が多く、頭に入ってこない（キャリブレーション等）。• こども家庭庁のファシリテーターとは何か、最後まで分からないままであった。
講座後	<ul style="list-style-type: none">• 講座後に相談できる場や相手がほしい。• ファシリテーターをやりたい人でも実践経験を積むことが必要。「仮免」として先輩の一部をサポートするような関わり方から始めることがよさそう。

試行を踏まえたモデルプログラム

➤ 受講対象者の想定

日頃業務・活動を通じて、子どもや若者と接しているか否かといった経験の有無は考慮せず、カリキュラムを受講することを想定する。

試行的事業を踏まえ、開発したカリキュラムを「基礎編」と「応用編」に分け、ファシリテーションの経験がない人は「基礎編」から、ファシリテーションの経験がある人は「応用編」を受講するように設計した。

	ファシリ経験** (多い)	ファシリ経験 (なし、少ない)
子ども経験* 業務・活動を通じて、日常的に子ども・若者と接している経験がある	A: 子ども向けのファシリテーションの実践経験が豊富 (該当例) ✓ NPOや大学研究室等、子ども若者の権利や子ども若者参画でファシリテーション実践団体 ✓ 当該団体の登録ファシリテーター ➡本プログラムによる養成対象外	B: 子ども経験はあるが、ファシリの経験がない (少ない) (該当例) ✓ 子ども・若者向け活動団体 ✓ 学童・児童館・養護施設等の職員 ✓ 子どもの権利の専門家・アドボケイト など
子ども経験 (なし、少ない)	C: 「子ども向け」ではない、一般ファシリテーションの経験がある (該当例) ✓ 一般ファシリテーション団体及び登録ファシリテーター ✓ 基礎編受講後に実践を経験した人 など	D: 子ども・ファシリ経験のいずれもない (少ない) (該当例) ✓ 地域での活動者やボランティア ✓ 自治体の事務系職員 ✓ 大学生 など

基礎編のターゲット

応用編のターゲット

* 子ども経験…日常的に子ども・若者と接したり、子ども・若者の意見を業務として行っている、または経験豊富

**ファシリ経験…グループファシリテーションの経験があり、そのためのスキルがある

試行を踏まえたモデルプログラム

➤ 講座の種類（基礎編、応用編）

【基礎編】

- 所要時間： 1日で完了するコース。
- 受講ターゲット： 主にファシリテーション経験がない（少ない）人や、ある程度経験があっても、基礎を学び直したい人などを想定（前頁の図のB・Dに相当）
- 内容： 必要なスキルの学習とベーシックな模擬会議の演習を中心とする。
- 位置づけ： 事前学習とこのコースの受講をもって、「（経験者のスーパーバイズのもとで）実践の場に出られる」ものとする。

【応用編】

- 所要時間： 半日で完了するコース。
- 受講ターゲット： 主に、おとな向けのファシリテーション経験者、基礎編を受講後、実践を経て、もう少し研修を重ねたいと思う人、ある程度経験はあるが実践の場面が限られてる人（元教員等）など（前頁の図のCに相当）
- 内容： こども・若者を対象とするうえで必要な知識と、応用的模擬会議を中心とする
- 位置づけ：
 - ✓ 基礎編受講者や、すでに一定のスキルのある方のフォローアップとして位置づけ。受講はマストではない。
 - ✓ カリキュラムとして提案するが、ニーズに応じて開講するもの。

試行を踏まえたモデルプログラム

➤ プログラム構成と教材

プログラムは、「事前学習」と「講座」で構成される。事前学習は、知識として学ぶ内容を網羅したテキストとポイントを解説するオンデマンドで動画を視聴して行う。講座は対面講座とオンライン講座を想定して開発した。

事前学習

- 当日講座は時間が限られるため、ワーク中心の内容としています。
- そのため、知識として学ぶ必要がある内容については、受講者が各自で事前に学習しておくことを求めています。

(主な学習内容)

※基礎編・応用編共通

- ✓ 「こども・若者ファシリテーションがなぜ重要なのか？」
- ✓ こども・若者の安全・安心を確保するための方法

※基礎編のみ

- ✓ ファシリテータが担うべき役割とは？
- ✓ ファシリテーションの具体的なシーン
- ✓ ファシリテーションにおける基礎的スキル（傾聴力、場のデザインなど） など

オンデマンド教材
(ネット上でオンラインで視聴可能)

テキスト教材

オンデマンド教材は、テキスト教材の一部を講師が解説したり、具体的なこどもが参加する対話の場面（イメージビデオ）を流したりする内容。

講座

- 基礎編は終日、応用編は半日の集合型の講座。知識を学ぶことよりも、学んだ内容の「振り返り」や、参加者同士の対話を伴う「ワーク」を中心とし、学習内容の自己理解を深め、実践力を養うことを目的とします。

(主な学習内容)

※基礎編は、スキルの学習と基礎的な模擬会議による演習、応用編は、より複雑なパターンでの模擬会議を実施します。

- ✓ 傾聴力…アイコンタクト・あいづち・相手に合わせる・オウム返しなど
- ✓ 質問力…質問を通じて噛み砕いていく技術、相手の状況に合わせて質問を投げかける技術など
- ✓ 模擬会議（1組4～5人で、こどもを想定した会議のファシリを体験し、振り返りを行う） など

対面講座
※同一会場に受講者が集合

オンライン講座
※オンライン会議の環境に受講者が参加

教材は、事前学習で用いたテキスト教材に加えて、当日投影するスライド資料、配布するワークシートを用います

学習の狙い・
学習内容

使用する
教材・
学習方法

試行を踏まえたモデルプログラム

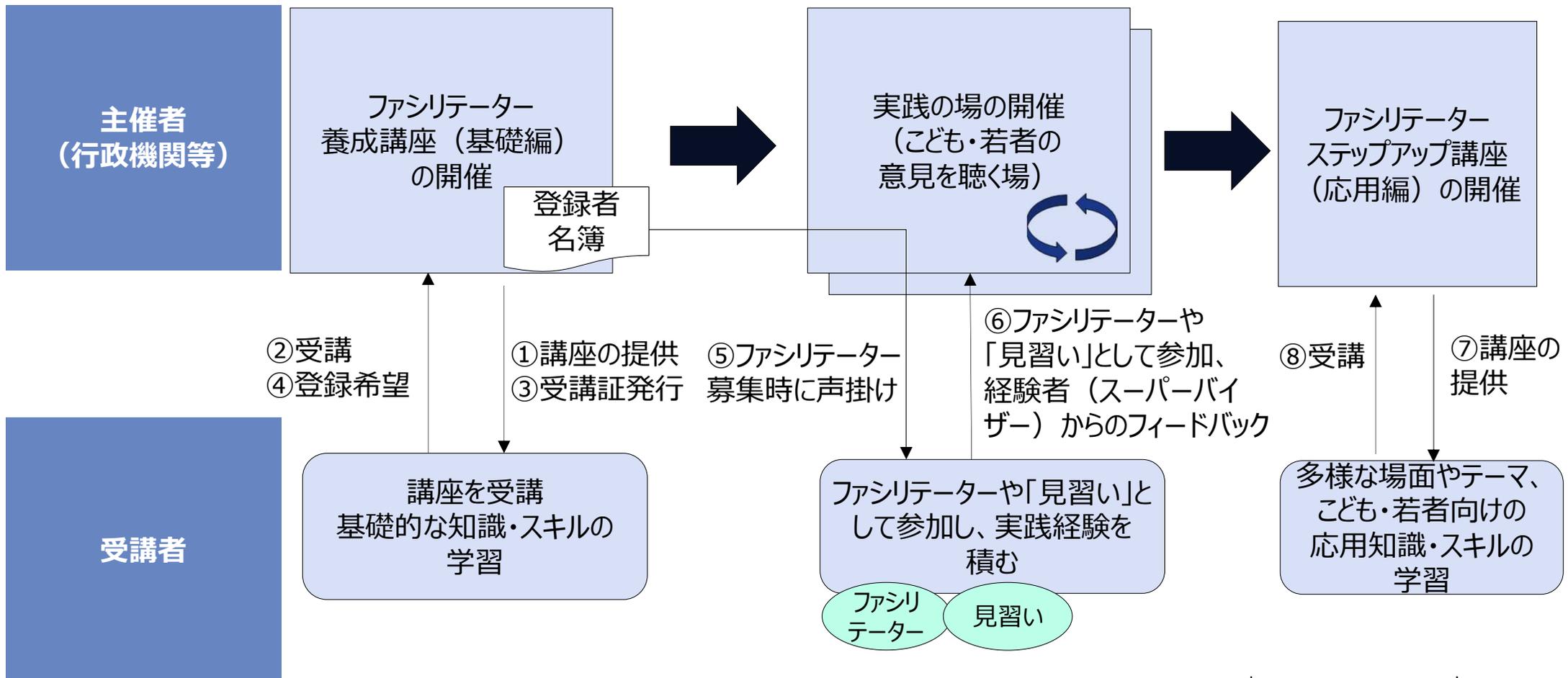
➤ 単元ごとの学習内容

単元	学習内容
第1章 はじめに	<ul style="list-style-type: none">✓ こども基本法の理念をもとに、こども・若者の意見聴取がなぜ必要なのか、を学んでいただきます。✓ 政策決定プロセスにおいて、こども・若者の意見を反映する意義や必要性、ファシリテーターが関わる意義などについて解説します。✓ こども意見ファシリテーターに求める資質（自分の価値観を押し付けない、など）についても理解していただきます。
第2章 ファシリテーションの全体像	<ul style="list-style-type: none">✓ ファシリテーターに求められるスキルを体系的に整理して学んでいただきます。✓ ファシリテーションを円滑に行うための、基本的な進め方、事前の場の設計や雰囲気作りを含めた「場づくり」の重要性などについて解説するとともに、「理想的なファシリテーター」と「理想的でないファシリテーター」を具体例をあげながら紹介しイメージを掴んでいただきます。✓ 会場レイアウトの具体例、アイスブレイクの種類や具体例、グラウンドルールの具体例も紹介します。✓ こどもたちの安心・安全な意見表明、エンパワーメントの支援のために重要な基本姿勢について、考え方を学んでいただきます。（こどもの権利、こどものセーフガーディング、こどもの成長段階別の発達の違いへの理解など）
第3章 コミュニケーションスキル	<ul style="list-style-type: none">✓ ファシリテーターに必要な、「傾聴力」、「質問力」について学びます。✓ 傾聴力については、目線（アイコンタクト）、表情、身振り、「あいづち」の打ち方、相手の行動やペースに合わせた行動のとり方など、質問力については、言葉の意味や情報を、質問を通じて噛み砕いていく技術（チャンクダウン）や、相手の状況に合わせて投げかける質問の方法などを取り上げています。✓ 幾つかのワークを交えて、これらの技術を実際にやってみる体験的学習ができます。
第4章 話し合いの進め方	<ul style="list-style-type: none">✓ ファシリテーションを円滑に進めるための3つのステップ①情報の「共有」、②意見の「発散」、③意見の「収束」について、解説します。✓ また、長時間の話し合いの場合の場をクローズングするための方法（チェックアウト）留意点や具体例を解説します。
第5章 演習	<ul style="list-style-type: none">✓ 「こんな時どうする？～対面編～」では、「こども・若者の安全・安心を確保するための方法（約束事）」について、ケーススタディを通じて学びを深めます。✓ 「こんな時どうする？～オンライン編～」では、発言が多い参加者がいた場合、どう声をかけるか？参加者の1人が話し合いのテーマと直接関係ない話題をした場合、どう声掛けをするか？などについて考えます。
第6章 振り返り	<ul style="list-style-type: none">✓ 学習した内容を受講者が自分事として受け止めて、今後スキルを向上させたいと思えるよう、今後に生かそうという気持ちになれるよう、マインドセットを促したり、自分が伸ばしたいスキルへの気づきを得るきっかけとして、「振り返り」の時間をとります。
第7章 様々な場面に対応する	<ul style="list-style-type: none">✓ 実践に役立つため、実際のファシリテーションの場で起きる様々なケースに対応するための注意点やヒントを紹介します（自分の意見が採用されなかった子のケア、メモや板書のやり方とコツ、共有・発表のしかた、オンラインのファシリテーションのポイント、「こども・若者の安全・安心を確保するための方法（約束事）」に反する人を見つけたら、アイスブレイク集）
模擬会議	<ul style="list-style-type: none">✓ 模擬会議では、上記で学んだスキルを実践を通じて学んでいただきます。✓ 具体的には、5人程度のグループに分かれて、ファシリテーター役を入れ替えながら、テーマを決めて話し合いを行います。グループごとに話し合い・本人へのフィードバックを繰り返します。

試行を踏まえたモデルプログラム

➤ 養成後のファシリテーター育成・ステップアップの流れ

ファシリテーター養成・育成はこども家庭庁を含む各講座主催者がそれぞれ独自に行うことを想定するが、基礎編受講後にファシリテーターとして活躍する実践機会を作ること、受講者の中で希望する人は登録しておき実践機会を案内すること、実践機会の中で先輩ファシリテーターから学ぶ育成機会を作ること、さらに講座（応用編）開催により、ステップアップの機会を提供することが期待される。



全国的なこども意見ファシリテーターの養成に向けて

- ▶ こども意見ファシリテーターの認知度を高めて受講者を増やすこと、養成されたファシリテーターの質を継続的に向上すること、主催者のサポートや職域アプローチにより、講座の主催者を増やすことが求められる。



短期

- モデルプログラム、教材開発（本事業）
- こども意見ファシリテーター認知度向上
- こども家庭庁主催の養成講座によるファシリテーター養成
- 「いけんひろば」をモデルケースとする育成の仕組み
- 行政機関等の開催サポート（説明会、見学・体験等）

中長期

- 各地域での養成講座主催
- 職域単位の養成講座開催
- スキル向上のための専門的な講座、中高生向け講座等の検討
- 講師養成の検討

